

ニュースリリース

一般財団法人KIBOW、総額10億円の「KIBOW社会投資ファンド3号」を設立 インパクト投資を通じて、社会課題の解決を加速

一般財団法人KIBOW(東京都千代田区、代表理事:堀義人、以下KIBOW)は、2021年11月9日、「KIBOW社会投資ファンド3号」を設立しました。1号ファンド(2015年9月設立)、2号ファンド(2018年4月設立)に引き続き、事業を通じて社会課題の解決を目指す企業へ「インパクト投資」を行います。出資総額は10億円。「社会を変える」志を持った社会起業家たちに投資し、起業家自身の成長や事業の規模化を支援します。

KIBOWは、「社会課題を解決し希望を生み出す起業家とともに、事業を創造し社会を変革する」というビジョンを掲げ、社会起業家への投資活動を行うインパクト投資ファンドです。インパクト投資の父と言われるロナルド・コーエン卿(Apax Partnersの代表として過去にグロービスと合弁企業を設立してファンドを運営)からの助言を受け、日本初のベンチャー投資型のインパクト投資ファンドを2015年にスタートしました。1号ファンド(総額1億円)・2号ファンド(総額5億円)を通して、これまでに累計13社の社会起業家へ投資をし、既に複数件のエグジットを実現、社会へのインパクトを創出してきました。グロービスのヒト・カネ・チエ・人的ネットワークを活用した出資に留まらないハンズオンの支援を特徴として、投資先への取締役の選任、採用支援等、社会起業家のビジョンの実現に必要な様々な支援を行います。投資対象は、地方創生(災害被災地含む)、医療・介護・高齢者福祉、育児・子育て支援、貧困問題、地球環境保護などの重要な社会課題の解決に取り組む企業とし、株式への出資を基本投資条件として1案件あたり1,000万~2億円を投資します。



- 障がい者就労者数は54名に拡大(2015年投資時は18名)
- 障がい者の訓練後 他社就職人数: 19名
- 障がい者の訓練後 自社就職人数: 6名(2021年6月までのデータ)



- 投資して2年間で直営事業所が2倍以上に拡大。800人の障がい者がITトレーニングを利用
- 就職後の職場定着率は通勤者が88.1%、在宅勤務者が96.4%
- Exit to Communityの成功事例に



- 投資後、4年間で352人が「介護卒業」(2017年10月~2021年6月)
- ポラリスのリードしてきた「自立支援」が介護保険の加算項目に



- 住宅困難者の賃借契約人数が投資前の18人から、75人に拡大
- 契約者の住居満足度が5段階評価で平均4.4にアップ(投資時は3.6)

れまでにKIBOWから生まれた社会的インパクト

今回、新たに「KIBOW社会投資ファンド3号」の運用を開始することで、国内において先駆けとして取り組んできたスタートアップ向けのインパクト投資の機運をさらに高めます。未知・未解決の社会課題にスポットライトを当て、解決に奮闘する起業家に対してより多くの資金が「あたたかいお金」として流入し、社会の変革を加速させることを目指します。



また、3号ファンドからの最初の投資案件として、Rennovater株式会社に投資を決定いたしました。Rennovater社には、2020年2月、2号ファンドから50百万円を投資済みであり、KIBOWは今回他の投資者と連携して、より大きな規模の資金調達のラウンドをリードします。

<一般財団法人KIBOW代表理事 堀義人 コメント>

KIBOWは、東日本大震災を契機に立ち上がり、当初は東北を中心に活動していましたが、今は社会課題分野で新たな「希望」を創る社会起業家へのインパクト投資に集中しています。1億円、5億円と規模を拡大して、今回10億円とさらに倍増させ、有望な企業に複数回に渡って最大2億円まで継続投資を行える体制としました。未知・未解決の社会課題分野にも挑戦し、事業の創造と社会の変革という大きなうねりを創っていきます。

◆「KIBOW社会投資ファンド3号」概要

名称： KIBOW社会投資ファンド3号

設立： 2021年11月

出資総額： 10億円(株式への出資を基本とし、1案件あたり1,000万～1億円を投資)

投資対象： 地方創生(震災被災地含む)、医療・介護・高齢者福祉、育児・子育て支援、ソーシャル・インクルージョン、貧困問題、海外支援・協力(国内団体に限定。ファンド総額の10%まで)

<出資者(投資決定担当組合員、敬称略)>

学校法人グロービス経営大学院

株式会社グロービス

寺田航平

堀義人

The Minor Foundation(アレン・マイナー氏の財団)

<アドバイザーボードメンバー(敬称略)>

駒崎弘樹(認定NPO法人 フローレンス 代表理事)

佐藤大吾(NPO法人ドットジェイピー理事長 / 一般財団法人あしなが育英会理事)

寺田航平(寺田倉庫株式会社 代表取締役社長CEO)

藤沢久美(シンクタンク・ソフィアバンク 代表)

藤沢烈(一般社団法人RCF代表理事)

堀義人(一般財団法人KIBOW 代表理事 / 株式会社グロービス 代表取締役)

宮城治男(NPO法人ETIC. 創業者)

アレン・マイナー(CEO, The Minor Foundation)

<これまでの主な投資先>

[愛さんさん宅食株式会社](#)(障がい者の自立支援、高齢者向け弁当宅配と介護事業を展開)

[株式会社ボラリス](#)(高齢者のQOLを上げる自立支援型介護を展開)

[株式会社47PLANNING](#)(地域の魅力を引き出す商業施設を運営し地域活性が出来る人材を育成)

[株式会社ラポールヘア・グループ](#)(多様な働き方ができる、託児所併設の美容室の展開)

[vKirirom Pte. Ltd.](#)(カンボジアで起業家教育を提供する大学を運営)

[Rennovater株式会社](#)(住宅確保困難者への住宅支援事業を実施)

[株式会社SCHOL](#)(公正な奨学金流通を実現するためのポータルサイト・SaaSシステムを運営)

[株式会社バオバブ](#)(障がい者など働き方に制約のある人々へAI領域での就労機会を創出)

[エースチャイルド株式会社](#)(子ども・若者が気軽に悩み相談できるSNS相談システムを提供)

[株式会社森未来](#)(サステナブルな木材を調達・販売するECプラットフォームを運営)

[ユングラント株式会社](#)(NPO法人など公益活動を行う組織向けに寄付集めのシステムを提供)

◆KIBOWについて (<http://kibowproject.jp>)

東日本大震災の3日後に始動した救援・復興支援プロジェクト「Project KIBOW」は、「希望」と「Rainbow」から命名しました。長期的に被災地を支援していきたいという思いから、2012年2月に一般財団法人化し、以下の3つを



軸に活動を展開しています。

1) 「場」の提供(イベント)

被災地各地で、地域の復興を願う人たちが集まる「場」を作っています。地域の内外のリーダーたちが集まり、交流を生むイベントを定期的を開催しています。

2) 寄付

これまで、約1400名以上の方々にご協力いただき集めた資金、約1億円を、被災地で活動しているNPOや各地のリーダー達に提供しています。

3) 社会的インパクト投資(KIBOW社会投資)

被災地に限定せず、「社会を変える」志を持った社会起業家たちに投資し、事業の規模化を支援します。

■本リリースに関するお問い合わせ先

グロービス 広報室 田村 菜津紀、土橋 涼

E-mail: pr@globis.co.jp TEL:03-5275-3870 FAX:03-5275-3890